

「石狩市自治基本条例を活かしたまちづくりを考える集い」で話し合われた内容のまとめ

【日時】 平成 24 年 12 月 19 日(水) 18時から 19時30分

【場所】 石狩市役所 201会議室（2階）

【出席人数】 19人（市民13人、市職員6人）

今回の集いでは、市民が主役のまちづくりを目指す石狩市自治基本条例が出来て5年目を迎え、この条例がどのように活かされてきたのか、活かされなかったのかなどを話し合いました。条例制定時の元市民会議メンバーや平成24年10月に開催した「いしかりまちづくりワールドカフェ」の参加者などが出席し、今後の条例のあり方について意見交換を行いました。

◎出席者から出された主な意見

【条例の見直し作業について】

- 検討委員会のような組織を設けてはどうか
- 今回の条例の見直し作業は行政主体で行われたが、市民を巻き込んで行う必要があった。
- パブリックコメントの資料は文字が並列的に書かれていた。図式的に書いた方が分かりやすい。

【条例の市民への周知について】

- いしかりまちづくりワールドカフェ（H24.10.14 開催）に参加し、初めてこの条例を知った。自分のように知らない市民が大多数だろう。
- パンプは全戸配布し広報に掲載しているが、多くの市民に知られていない。どうすれば知ってもらえるのかみんなで考える必要がある。
- 条例を市民に知ってもらうためにも、今日のような場が大切だと思う。
- 成人式や小学校で、条例のパンプを配布してはどうか。

【条例を活かすための取り組みについて】

- 条例を作った以上、活かされることが大事。第三者が監督し、ルールに違反したらイエローカード（警告）を出すなどしてはどうか。
- 条例が活かされるようチェックする第三者機関が必要ではないか。
- ワールドカフェのようなイベントを定期的に行ってはどうか。
- 今回のような集いを1回だけではなく、複数回行ってはどうか。
- 条例制定から見直しに至るまで（条例を活かすための）目立った動きがなかった。この間に、ワールドカフェのようなイベント行ってはどうか。

今回の集いでは、条例の見直しに際しての検証作業や条例を活かすための取り組みについて出席者から積極的な意見が出されました。

出席者からの意見にもありましたが、条例を制定するだけでなく、今後は、条例を石狩市に根付かせていくための取り組みが求められています。

市民の手によって作られたこの条例を活かしたまちづくりを行っていくためには、多くの市民に条例の趣旨を広め、市民や市が共にまちづくりについて考える機会を重ねていくことが重要であると考えられます。今後は、多くの市民がまちづくりについて話し合えるような場を条例の見直しの時だけでなく設けるよう検討していきます。